落葉せしうめもどきの実てらてらと鵯(ひよ)の貪慾許してをりぬ

退職者　中尾種夫

久に来し松原櫨燃えて能古島見ゆ渚に立てば
腕組みて徹夜せし日よ潔よく職去る友に捧ぐる敬意
慰さめの言葉知らねば頭下げて通り過ぎたり老いし遺族に
青史に刻む永き厳しき闘いを妻と誇りぬ貧しけれども
柳川は白秋の里、帰去来の詩碑にたたずむ吾れは旅人

詩　三池へいくとき

新潟　かなやま　つる

あなたは三池を知っていますね
炭坑節で有名なあの三池を知っていますね
でも　あの炭坑節の三池はいいことばかりで
ほんとうの三池は別のもの

月までとどく煙突の高さより深く
海底に掘り進んだ三池炭鉱を知っていますか
とても暗い地底の仕事は
どんな仕事より汗が流れ
どんな仕事より力がいる
その　もっとも大事なことはいいかげんにして
だまって働くものを雇い入れた
三井三池のことを知っていますか
そのむかし　囚人を働かせ
朝鮮人強制労働をさせ
カンバツにたおれた沖縄の小さな島の人たちを
ただ同然に使って
会社だけがまるまるとふとっていった
三井三池のことを知っていますか

一年に何十人もの人が死ぬ
それが　ざっとした数であって
ほんとうは何人死んだのか
わからないという炭鉱の話を知っていますか
これでは人間として生きていけないと
声をあげた労働者のいた三池炭鉱を知っていま
すか
世界にひびいた労働者の歌声
日本中の働くものが手をとり合った
『三池闘争』のことを知っていますか
正しいことは正しいと
おれたちも人間なんだと　こぶしふりあげた
勇気ある労働者のいる
三池炭鉱労働組合を知っていますか
けれど立ち上がった労働者をたたき
かたいスクラムをこぼうぬきにして
「おれの言うようにすれば悪いようにはしない
ぜ」と
スゴ味をつけて労働者を分断した資本家のいる
三井三池炭鉱のことを知っていますか
「でもそれは過ぎたむかしのこと　特別の炭鉱
の話じゃないか……」というのですか
『アナタハ三池ヲ知ロウトシナイ
アナタハ自分ヲアキラカニ見ヨウトシナイ
アナタハ自分ノ恥部ニ触レヨウトシナイ
アナタハ真実ヲ知ルノガオソロシイ
アナタハタタカウコトガコワイ』
人が三池へ行くとき
体をつきぬけてこみあげるのは
日本労働者に共通の怒りであり
世界の人間に通ずる怒りなのです
労働者は資本と闘わなければ生きていけない
世界の
日本の　そして
三池の歴史にそう記されてあるのです

金山ツルさんは、新潟県佐渡郡佐和田町八幡一七二三の一にお住いで、CO守る会の会員です。ご投稿ありがとうございました。ともに頑張りましょう。

狂句

退職者　佐藤勉

さわやかにサンタモニカの風が吹く
車座で鉄砲傷が唄わする
その昔ま遊びの日の遠くなり
秋高くまたずれ起こす阿蘇ん牛
ひっかかりがけでミイラになっとった
少年の誇り理想を語るとき
この辺で盃伏せるマイペース
人はもう消耗品でない平和
年賀状師のおとろえぬ筆のあと
うたもよし日もよし揺れる角かくし
風吹けば風の音譜を作る松
長生きの秘訣ともかく笑うべし

俳壇

九分会　平田光男

偶然にも
二人して勤めを休んだ
夫婦連れでポイント
妻と
私は
子供に専門学校を卒えさせるために
懸命なのだが
そう若くない二人には
満勤などできるものではない
久し振りに
連れ立って
近くの山に登り
遠くの海と
その向うの
高い山を見た

手記　定年

退職者　弥永善治

坑口に向かって人車はひた走る。もうふたたび来ることのない坑内。坑内生活三十七年間は長かった。実に長かった。やっと今日で坑内との縁もぷっつり切れてしまうのだ。五十五歳定年制によって退職していくのだが、振り返ってみると今までに一日として早く坑内に下がって働きたいと、勇んで入坑した日があっただろうか。とくに三番方の出勤は足が重く、進まなかった。

昭和二十一年あの食糧不足、住居がない時代に入社したが、多くの仲間たちも続々炭鉱に入ってきた。

さつま芋にたくあんの弁当が思い出される。毎日のように災害で死者を出した時期もあった。いま定年を迎えて周囲を見まわしてみると、当時肩を並べて入社した多くの仲間のうち、かなりの人たちがいない。〝もう坑内労働はいやだ〟と見切りをつけた者。傷つき病いに倒れ、定年を迎えることなくこの世を去った者。くしの歯が欠けるように姿を消している。

私も昭和三十七年三月落盤事故に見舞われ、全身が埋没してしまった。ものすごい重圧感でビシビシと体に食い込んでくる。呼吸が苦しくなる。押しつぶされそうだ。死の恐怖におののく。この上次の落盤でも起こればおだぶつだ。落盤災害で命を奪われて行った人たちほどこんな貧苦の中で死んでいったのだろう。

仲間たちは懸命に救出作業に当たってくれた。死にたくない／助けてくれ／当時四歳だったわが子の顔が目の前をよぎっていく。顔は石炭に押しつけられ、息が詰まりそうだ。心臓は早鐘のように鼓動する。なぜあの時に息子の顔が出てきたのだろうか……。

娘に次いで息子が誕生した。双児だった。一人は私がミルクとおしめ替えを受け持った。夜でも腹がすくと三、四時間おきに泣き出す。寒い夜中のミルク作りは大変だった。おしめを取り替えると、気持ちよさそうにすやすやと眠ってくれた。

誕生過ぎると動きが活発になってくる。三番方で寝ていると、ふとんの上にゴソゴソやってきて馬乗りになる。私の寝顔をたたく。双児だから統一行動でくる。とても寝られたものではない。以後は押し入れの中で寝たものだ。

食事のあとは、こぼしたご飯つぶを拾うというようなものではなかった。ホウキではわき出したもんだ。三人の子供を乳母車に乗せて妻と交替で食事をした。三人も乗るため乳母車の袋が破れてしまい、強いのに張り替えた。すると車軸が折れてしまう。もう大変だった。

出勤前にトイレに入り、妻は台所に立っている。そのちょっとした油断のすきに、詰めてあった私の弁当を開き、おかずをわしづかみにして双児の統一行動がはじまっている。あどけない笑顔に腹もたてられない。まあ、いろいろとあったもんだ。

この二十数年間に、安い給料ではあったがよその家庭とはひと味ちがった苦しみ、楽しみがあった。貧乏な生活、三池労組員なるがゆえの差別を受けた。組織切り崩しのために――。

〝親子の断絶〟〝積木くずし〟そんなものが入り込む余地がないぐらいに生活が苦しかった。仲良く楽しくやろうと親子で頑張った。子供に支えられてきた。いま、娘は二十八歳、息子二人は二十六歳、元気で育ってくれた。ありがたいことだ。地獄の責苦からやっと解放された。

いよいよ定年。最後の入坑を終え坑口に立っている。来る日も来る日も多くの労働者をのみ込む坑口。大量の石炭を吐き出している坑口。もう入坑することもなくなった坑口。さまざまな思い出があったが、ともかく長い間お世話になりました。さようなら――。

三池炭鉱よ、三川鉱よ。今後は災害の起こらない、働きやすい炭鉱であってほしい。と祈りながら三十七年間の足跡を残して俺は去っていく。

（一九八三年十一月退職）

繰込場への通路（三川鉱）

琵琶湖での集いで。興梠さんは右端に。

随想　思い出

大阪　興梠はつえ

九月二十五日から二十六日の近畿周辺在住者の第二回馬渡会琵琶湖一泊旅行のときの写真が、末吉さんと緒方さんから数葉ずつ送られてきましたので、早速お二人にお礼の電話をしました。

緒方さんが、今回も百通近いお便りと写真を送られていると聞いていましたので、送料の一部にでもと記念切手二十枚を送ったところ、『お気持だけいただきます。馬渡地域ではお世話になり、まだまだ借りがあります』とのご返事で、別の記念切手がお返しに送られてきました。次女の息子、六年生の孫は、「僕が持っていない珍らしい切手ばかりだ……」と大喜びでした。

昭和四十四年に夫が定年退職し、生まれ故郷の大牟田から、子供たちが就職している大阪に移転したときには不安がいっぱいでした。友人・知人も多く、弟妹との別れや人情味の厚い炭住街の人びととの別れはつらいものでした。

でも、大阪にきて三池労組の出身者、中でも元の宮浦支部出身の仲間や友人・知人の多いのにおどろき、心強く思ったものです。来阪して十四年、三池闘争のときには高校、中学、小学校の一男三女の子らは発育盛りでしたが、すでに子供を持つ親になりました。

当時、主婦会の分会長だった私は、夫と家族の理解と協力がうれしく、会員の皆さんの協力も大変ありがたいものでした。資金もなく、しかも多忙な中で次つぎに行事ができたものだと感心します。皆さんの気持が一つにまとまった結果だったと、分会長や子供会育成の役員を経験した妹（大牟田在住）たちとも、会うたびに当時の『思い出』話しとなります。

三百円のわずかな会費で、テレビ二社にも放映された笑いと涙、そして感激の集団銀婚式……。子供たちは、しめ飾り、お供えものなどをそれぞれが持ちより、神官の謝礼も節約とのことで、分会長の緒方さんが神主さん風に大声で「のりと」を唱えると、厳粛なときなのに吹き出しそうな笑いを噛みしめる。隣を見たら皆さん同じで、あとで大笑いとなったことなど、今では考えられないことです。

子供会自身のアイデアでグループ毎にいろいろなお化けを作り、上級生がおどかし役になり、廃品回収などして実行したお化け大会は、今でも語り草になっています。

迫力と熱気いっぱいの女性だけの大運動会もありました。宮浦支部主婦会二千五百人余の参加者の中で、馬渡分会約百五十人の仮装行列『女の歴史』がみごと優勝しました。そのときの一人ひとりのお顔が二十年を経た今でも、当時の年齢そのままに瞼に浮かんできます。

五月の集団銀婚式、八月のお化け大会など、楽しかっただけに、その年の十一月九日、三川鉱での大爆発で四百五十八人もとくなられ、八百三十九人の重傷者やCO患者を出す事故があったことは忘れることができません。

あれからもう二十年が過ぎましたが、犠牲者の方々の冥福と患者の皆さんの一日も早いご快復を祈るばかりです。かずかずの思い出とともに、働く仲間をこんなにまで苦しめる三井鉱山の態度に今なお怒りを覚えるこの頃です。

× ×

興梠はつえさんは、大阪市城東区関目四丁目三の二五にお住まいです。若干割愛いたしました。

新たな装いの延命公園。体育館前に植え込